

## 日本造血細胞移植学会近況報告

理事長 小寺良尚

2007年度に入り早半年以上が過ぎ、秋を迎えつつある今、会員の皆様に学会の近況をお話したいと思います。

造血細胞移植情報管理学講座によるデータ一元化事業は2006年がその最初の実施年となりましたが、登録数で前年（血縁骨髄・末梢血、非血縁骨髄・臍帯血、自家）を上回り、先ずは順調なスタートを切ったと言えると思います。さい帯血バンクネットワークとも、データ交換のシステムで合意に達し、実施に向けて作業を行っているところです。又、本学会が積極的に関与することが合意された Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT, この学会のホームページは本学会ホームページにリンクされています)の主要な事業である Asian BMT Registry を、この一元化システムに基づいて構築する基本的合意が、アジア各国で得られ、その最初の登録が行われました。さらにこの Asian BMT Registry の発足は CIBMTR (Center of International Blood and Marrow Transplant Registry), EBMT (European Blood and Marrow Transplant Group) 並びに WMDA (World Marrow Donor Association)の知るところとなり、これら登録機構の様式を統一して造血細胞移植症例世界登録機構を構築しようとの動き(WWBMT; World Wide Blood and Marrow Transplantation Group)が始まって、今までに 2006年12月 ASH (Orlando), 2007年2月 BMT Tandem Meeting (Keystone), 2007年3月 EBMT (Lyon) にそれぞれ付随して開かれた検討会議に、本学会と APBMT を代表する形で参加してまいりました。その進捗状況は近日中にHP等を通じて又会員の皆様にお知らせいたしますが、この世界登録機構は症例初期情報の事前登録制になる可能性もあり、それを完全なものにするために医療保険適用の条件の一つにするというアイデアも出されています。もしそうなれば国民皆保険下のわが国においては文字通り全症例が事前登録されることになり、症例情報はドナー情報も含まれますので、全ての患者、ドナーは少し大げさに言えば、全世界に見守られて移植を受け、幹細胞を提供することになります。これは移植・採取チームに今一度自覚と緊張感を与え、移植成績の向上、ドナーの安全に繋がると考えています。各種委員会活動の中では、専門医制度委員会と学会在り方委員会の共同作業で、本学会の専門（認定）医、専門（認定）看護師、認定施設の在り方をどうするかが検討されており、会員を縛り、格差をつけるものではなく、会員の自己向上を助け、各移植チームの更なる発展を助けるものにして行くことが合意されつつあります。更に在り方委員会では、他の関連学会、特に臓器別学会を横断する形の日本移植学会、日本輸血・細胞治療学会、日本アフェレーシス学会等並びに先にも述べた海外の APBMT, BMT Tandem Meeting, EBMT と、相互の独自性を保ちつつ協力してゆくあり方について検討されることになっています。

社保委員会では平成 20 年度健保改訂要望項目を提出、内保連に取り上げてもらい、厚労省のヒアリングも受けました。これは平成 18 年度と同じ造血幹細胞採取・ドナー安全管理に加算してもらおうというのですが、皆様にもご協力いただいた骨髄移植推進財団署名活動（基本的には学会と同一の要請）と相俟って、平成 20 年度の改訂が我々に有利なものであるよう見守って行きたいと思えます。臨床研究委員会では学会主導として初めての臨床研究を、TAM（Transplant-associated microangiopathy）をテーマにして始めます。ガイドライン委員会は今までの各種ガイドラインの更新に向けて精力的に作業を行っています。ドナー委員会は非血縁者間末梢血幹細胞移植の開始を厚生労働省に提言いたしました。現在、実際の採取に当り、どこでボランティアドナーに G-CSF を投与するのか、どこでどの様に採取するのか（外来ベースか入院か）、採取後先ずは短期的に何時までドナーをフォローするのか等について学会の見解を纏める作業をしているところです。看護部会では韓国、台湾、中国のナースとの交流が開始されようとしています。その他、理事評議員選任委員会、編集委員会、倫理委員会もそれぞれの業務を遂行しています。次年度は理事が大幅に改選される時期に当たっております。本学会も若い学会といわれながらも今年度で第 30 回目の学術総会を迎えるまでになりました。本学会は造血細胞移植に情熱を持ち、日々移植に携わる現場の方々を主体とした学会です。今までのよき伝統を継承し、若い学会を更に若返らせる理事のメンバーが選出されることを望んでいます。これらの多様な学会業務を進捗管理し、実行していく上で中心となる事務局は 3 人体制（専任：1、パート：2）でかなり多忙ではありますが、その中で会員と会費の管理という主要業務は充実してきており、会員は尚増加し、会費の納入状況は向上しています。2008 年 12 月 1 日には公益法人制度改革 3 法が施行され同法に基づく各種法人の再編成が開始されます。本学会が現在の有限責任中間法人から公益性の高い社団法人へ発展する上でも、今まで述べてまいりました学会の活動実績と運営能力は不可欠のものであります。本学会が、会員の自由な情報交換の場としての良き特質を堅持しながらも、その結果として現れる高い公益性を今後とも強くアピールすることにより、会員の皆様の要望が強い場合には公益社団法人を獲得出来るだけの力を蓄えて行きたいと思っています。

以上、学会並びにその周辺の現況と近未来につき述べさせていただきました。末尾になりましたが会員の皆様のご健勝をお祈りし、理事長からの報告とさせていただきます。